

「福祉教育推進事業 まなびねっと」 令和7年度 実施要項・プログラム紹介

社会福祉法人美里町社会福祉協議会

1. 目的

福祉は『ふだんのくらしのしあわせ』であり、福祉教育は『共に生きる』心を育む体験学習。

児童・生徒が地域の方々と出会い、対話する中で他者との『ちがい』に気づき、認め合い、自分自身にできることを考え、実践するきっかけづくりを行います。

2. 令和7年度 実施方針

(1) 対象について

- ・小学校3年生以上
- ・出前講座は原則、1学年あたり最大3テーマ／4回程度を推奨(年間)
(※) 町内各校(小学校6校ほか)から年間を通したご依頼を頂いているため
- ・地域との協働に関する相談やプログラム提供等は対象や回数の定めなく実施

(2) 地域講師・ボランティアとの交流について

- ・地域講師(障がいをお持ちの当事者の方等)、福祉教育サポーター(出前講座のサポートボランティア)等との交流の機会づくりを行います。
- ・出前講座だけでなく、学校ボランティア等についてもお気軽にご相談ください。

(3) その他

プログラムの内容や実施方法等は各校と協議の上、感染症対策を講じ実施します。

【プログラム一覧】

■福祉テーマ1: 福祉総合・ボランティア(p.2)

- ①ふくしってどんなこと? ②赤い羽根共同募金ってどんなこと? ③ボランティアってどんなこと?

■福祉テーマ2: 多様なくらし(障がい、高齢 p.3~p.5)

- ④目が不自由ってどんなこと? ⑤耳が不自由ってどんなこと?
⑥障害者福祉協会の皆さんとパラスポーツ交流 ⑦としをとるってどんなこと?
⑧世代間交流

■防災テーマ(p.5~)

- ①ぼうさいビンゴゲーム ②防災グッズ作り体験 ③KYT(危険予知トレーニング)
④クロスロードゲーム ⑤災害時のささえあい ⑥ひなん所ネコの手ボランティア

《福祉テーマⅠ：福祉総合》

■ねらい:福祉は「自分も含めたみんなのこと」であることを知るとともに、自分自身も地域の大切な一員であり、支え合いの中で生きていることを意識する。

①「ふくし」ってどんなこと?(総論) 45分×2コマ

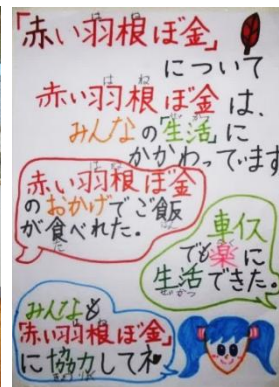
- ・ふくしは「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ/美里町のこと(人口分布など)
- ・ワーク(ぼく・わたしのエコマップ/ぼく・わたしにできること等)
- ・ユニバーサルデザイン、パラスポーツ、福祉マーク等について紹介



②「赤い羽根共同募金」ってどんなこと? 45分

講話「赤い羽根共同募金」について知ろう!

- ・赤い羽根キッズプロジェクト(校内募金活動)導入



③ ボランティアってどんなこと? 45分×2コマ

- ・講話「ボランティアってどんなこと?」
- ・SDGs×ボランティア体験(使用済み切手の仕分け等)



《福祉テーマ2：多様な暮らし(障がい、高齢)》

■ねらい:弱者ととらえられがちな高齢者や障がいをもつ人たちの「魅力」や「くらしの工夫」等に焦点をあて、「ちがい」を尊敬し合える出会いと対話の機会をつくる。

「障がい」は身体状況そのものではなく「環境」=暮らしにくさのことであることを体感し、自分にできることや関わり方、コミュニケーション方法等について考え、実践しようという思いやりの心を育む。

④ 「目が不自由ってどんなこと？」(動画学習:視覚障がい) 45分×2コマ

- ・「佐藤さん(※)のくらし」動画視聴・ワーク
- ・動画で紹介した生活サポートグッズなどの紹介



※佐藤さんは町内在住の視覚障がいの方。動画学習後は児童からボイスメッセージを贈る活動、サウンドテーブルテニス体験(サウンドボール・ラケット貸出し)など

⑤ 「耳が不自由ってどんなこと？」(聴覚障がい) ※事前学習と交流 2日間

1日目:事前学習(動画視聴) ※45~60分間



- ・「佐々木さん夫妻(※)のくらし」の様子を視聴。
- ・講師に聞きたいこと(質問)などを考え、交流授業への意欲を高める。

2日目:佐々木さん夫妻と交流 ※45分×2コマ

- ・佐々木さんからのお話(手話通訳者による通訳)
- ・子どもたちから質問タイム
- ・コミュニケーションゲーム、手話体験など



※佐々木さん夫妻は町内在住の聴覚障がいの方

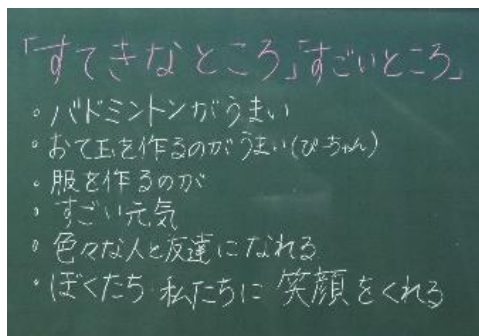
⑥ 障害者福祉協会の皆さんとパラスポーツ体験(身体障がい) 45分×2コマ

- ・障害者福祉協会の方から「ふだんの暮らし」の講話
- ・フライングディスク/ボッチャ 体験・交流



⑦ としをとるってどんなこと?(高齢者理解) 45分

- ・「高齢者」ってどんな人たち? /ワーク「高齢者のからだところ」
- ・世代間交流に向けて 交流相手の紹介など



⑧-1 世代間交流(地域の高齢者の方々と交流) 45分×2コマ

※地域のつどいの場、在宅高齢者、高齢者施設等 交流先のご紹介や調整



⑧-2 世代間交流（地域コンサート）45分×2コマ

※学校の体育館で「コンサート」を開催し、近隣の地域住民や高齢者施設利用者等を招待



防災テーマ プログラム紹介

直近の自然災害について被災地の状況などを伝えながら「備え・防災の重要性」について導入し、「ふだんの暮らしの中で、自分にできる防災」について児童・生徒自身で考える機会をもつ。

また、学校の避難訓練や福祉出前授業の内容と連動させ、自分の身を守る（自助）とともに他者と協力しあって身を守る（共助）ことにも視野を広げ、防災は日常の延長上にあるという意識を高める。

※個人ワークもしくは少人数グループワークを中心とし、自分で考える→話しあう→他者の考え・価値観の多様さを知る機会となれるよう実施。各校と協議の上、実施方法等を検討（基本は小学3年生以上／1回あたり30名程度まで）

《防災テーマⅠ：非常持ち出し品（備え）について考えるワーク》

■ねらい：災害で避難をする場合を想定し、「命を守るために必要な備え」について考え、話し合うことを通し、ふだんの暮らしの中で取り組むことができる防災について意識する機会をつくる。

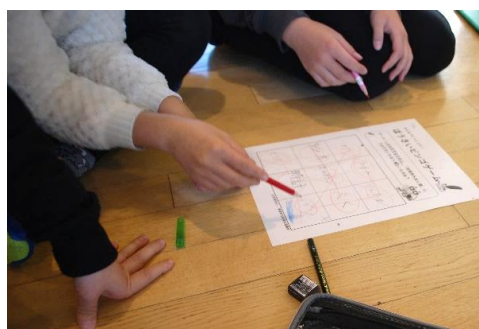
個人

①ぼうさいビンゴゲーム（小学校3年生以上）45～60分

■内 容：個人で9マスのビンゴシートに「非常持ち出し品」を記入。

情報交換タイム（他者の考えを参考にしながらシートを完成させる）。

ビンゴタイム（社協から提示）、全体共有、まとめ



《防災テーマ2：身近なもの・場所で身を守ることを考えるワーク》

個人

②防災グッズ作り体験(小学校3年生以上) 45~60分

■ねらい:新聞紙やキッチンペーパーなど身近な物で防災グッズを作り、実際に使ってみる体験をすることで、災害時の身の守り方や日頃の備えの必要性について学ぶ。

(例) 新聞紙…スリッパ、コップ、食器、クッション キッチンペーパー…簡易マスク
ポリ袋、ゴミ袋…簡易レインコート 牛乳パック…スプーン など



集団

③KYT 危険予知トレーニング(小学校3年生以上) 45~60分

■ねらい:児童が普段過ごしている校内の写真をもとに災害(地震)時に起こりうる危険を想定し、安全を確保するにはどうしたら良いか考える。他者と一緒に考えることで新たな気づきが得られること、互いに守り合うことができることを意識する。

■内 容: 少人数グループに分かれ、校内写真を確認。
地震発生時に危険だと思う箇所をマークする。
その理由、どう危険回避するかを発表し共有。



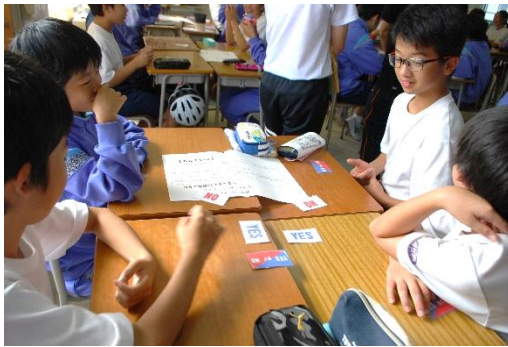
集団

④クロスロードゲーム(※小学校5年生以上)

■ねらい:災害時において分岐点(クロスロード)となるような状況に際したときを想定し、自分ならどうするかを考え、伝える訓練を行う。さらにお互いの考え方を受けとめあうことで多様な考え方があることに気づき、災害時においてもコミュニケーションが信頼関係を築く重要な土台であることを実感できる機会とする。また、災害には対処だけでなく備えが大切であることを伝え、学校や家庭生活での防災の意識づけをする。

■内 容: 少人数グループ(4人まで)に分かれ、一人ひとりYES/NOカードを配る。
「災害時に起こり得るクロスロード」を出題し、個人でYES/NOどちらの立場をとるか考え、決める。
かけ声にあわせて全員でカードを出し、グループ内で一人ずつ理由を話す。
※個人ワークとして行う場合はカードを使わず、体育館などで「YES」「NO」それぞれの場所へ移動してもらい、一人ひとりに理由を言ってもらう。

まとめ(価値観は一人ひとり異なり、だからこそコミュニケーションが重要)



※ 阪神・淡路大震災において災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに考案されたゲーム。
質問の一部を美里町の実情に合わせて変更しています。

《防災テーマ3： 共助を考えるワーク》

集団

⑤災害時のささえあい～困ったときはおたがいさま～(※小学校4年生以上)45～60分

■ねらい: “災害弱者” となりやすい状況にある方(障がいや高齢、外国人等)の立場に立って、災害時に起こりうる困りごとを想定しながら、自分自身が相手のためにできることを考え、お互いに支え合って生きることの大切さを考える。

■内 容: 少人数のグループに分かれ、それぞれ想定する設定(高齢者等)を伝える。

災害時、避難所で困ることをふせんに記入し貼る。

発表・共有し、まとめ(小学生・中学生にも地域の一員としてできることがある)

集団

⑥ひなん所ネコの手ボランティア(※小学校5年生以上)45～60分

■ねらい: 災害時の避難所を想定し、一人ひとりが避難者の特性をイメージしながら避難所での過ごし方について考える訓練を行う。他者に配慮しながらお互いの強みを活かしかねる方法について話し合うことにより、「自分の身は自分で守る」ことを考える防災からさらに一歩踏み出し、「他者とともに助け合うこと(共助)」を考える防災訓練のきっかけとする。

※「避難所運営ゲーム(HUG)」と6年生道徳教科書『うちら“ネコの手”ボランティア』の要素を組み合わせて考案したもの

■内 容: 少人数のグループに分かれ、「災害が起こり、家族と一緒に避難所(体育館)へ避難した」ことを想定

同じ避難所内で困っている人がいた場合、どのような手助けができるかを話し合い、発表する。

